

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	エンブ県において、生ゴミを活用した循環型社会に向けたリサイクルシステムを形成する。
(2) 事業内容	<p>エンブマーケットでの活動進捗</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生ゴミとその他のごみを仕分けする容器の設置 (添付写真①) ・ごみを仕分けする条例化へ向けて、市役所環境部門、総務部、マーケット内のコミュニティとの話し合い継続中 <p>エンブ刑務所での活動進捗</p> <ul style="list-style-type: none"> ・堆肥を管理するための工場の建設 完了(添付写真②) ・ごみの運搬・再仕分け作業・堆肥化作業 実施中(添付写真③) <p>有機農業トレーニングセンター (KOAETEC)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月初旬より 農業従事者・若者を対象にしたセミナーを開始(添付写真④)
(3) 達成された効果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民向けセミナー参加者 337名 (1月末まで、計11回のセミナー終了時点) 掲げていた目標値 330名 ・地域住民向けセミナー参加者へのフォローアップ 堆肥化作業の継続率 フォローアップ対象者 125名 うち継続者 41名 33% 5エリアに分けられた地域の中の、ネンブレ地域から参加した農業者へのフォローアップを開始。1月末までに10回の巡回を行った。 掲げていた目標値 30% エンブ市内全体のごみの総計 約200t/週 その内リサイクルできたごみの割合 約28.5t 約14.25% 1月末までの刑務所内受講者 実績 436名 掲げていた目標値 約600名 目標値より低い理由:(4)に記載。
(4) 今後の見通し	<ul style="list-style-type: none"> ・エンブ市役所・エンブ刑務所との連携により、ごみの回収・仕分け・堆肥化の流れができたことによって、より多くの政府機関も注目し始めた。ゴミ分別の条例化へ向けて関係各所である NEMA・Ministry of Public Health (以後、公衆衛生省とする) との協議も始まった。今後はこの条例化に向けて、マーケット内のコミュニティ・地域住民への分別意識の徹底化を促すため、毎年、当会が行っている街のクリーン活動より大きな規模の啓蒙活動も実施する。その際、街を4つのエリア(セントラル・ブルーバレイ・ダラス・マ

	<p>ジンボ)に分けて、過去にセミナーに参加したグループのメンバー約100名を中心に行う。</p> <ul style="list-style-type: none">・エンブ刑務所にてトレーニングを受けた受刑者および刑務所の警務官を中心にし、エンブ刑務所プロジェクトサイト内で行われる堆肥化作業を円滑に機能させる。 <p>1月現在のエンブ刑務所でのトレーニング受講者数が目標値より低いのは 前半に行われた建築に人手が取られ、その間、効果的なトレーニングができなかったため、その間の受講者数を計上していないためである。建築が終わってからの活動では徐々に計画の数値を取り戻している。目標値約600名の不足分164名は、残りの64回のセミナーで、毎回約2、3名の受講者を上乘せすることによって(今後の1回の参加者数は21~22名)補てんし、最終目標値である1800名の達成を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none">・地域住民向けセミナーでトレーニングした農業者・若者たちへのフォローアップの際、どの程度のセミナー受講者が、その後、活発に堆肥化作業をしているのか、また未受講者の農業者に対して、どのくらい普及しているのかも調べていきたい。
--	---